モノフォルムバケットシート　280PSのシート。これがGT-Rシートのテーマだった。グループAカーのシートを覗く機会があれば、よく見ていただきたい。スポーツ用シートの理想がそこにある。ただし、それはサーキットを走るためだけの目的から、あまりにもタイトすぎてロードカーには適さない。しかし、ホールド性、あるいは操縦性を高めるため上体の自由度を大きくとりたいという点ではGT-Rに相通じる。このシートは、そのグループAカーのシートをモチーフにしてさらにチューニングを施し完成させた。

ホールド性を高めるためには、形状を絞り込むことで比較的容易に対応できる。が、そこには比例して窮屈感が伴なってくる。ホールド性の向上と窮屈感の解消。この相反する特性を、このシートは実現した。シートに触れる人体の主要なところを、インバース形状にすることで両立できたのである。インバース形状とは、センター部を中心に適度なRをつけた包み込むような形状で、肩部、脇腹、腰部、大腿部に採用。この採用箇所は、整体医学、人間工学の両面から割り出しており、スポーツ走行時の横Gに対した際の操縦性の確保、長時間におよぶハイウエイクルージングの際の疲労感の軽減を果したのだ。座っただけで、その〝こだわり〟をわかっていただけるだろう。